

番号	5 - 21	申請者	看護師 荒木 康幸
<p>【審査申請課題】</p> <p>精油を用いた芳香浴により術後患者の睡眠状況へ与える効果</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>手術療法の適応となる患者は手術に伴う侵襲により、身体的影縛のみならず、精神的にも様々なダメージを受ける。さらには、環境の変化や社会生活の変化による適応が必要となり、睡眠や生活リズムの変化を余儀なくされる。</p> <p>睡眠障害への看護介入は、日中の活動促進や光反射、アロマセラピーなど様々な方法で取り組まれている。その中でアロマセラピーは、代替医療の一つとして不眠やせん妄、誤嚥性肺炎の予防、認知症など幅広い分野でその有効性が明らかにされている。先行研究では、藤本は、開心術後の芳香浴により起床時眠気、入眠と睡眠維持、疲労回復に有意に効果があったと報告している。また、桑原は睡眠薬を使用しているにもかかわらず昼夜逆転傾向で、夜間浅眠で中途覚醒のある認知症患者に対し夜間ラベンダーオイルを使用した芳香浴を実施することで、夜間睡眠時間の延長、中途覚醒の減少がみられ、睡眠効果がみられたと報告している。</p> <p>A病棟は、手術療法を受ける患者を受け入れる外科・整形外科の混合病棟である。環境の変化や手術侵襲など、術後は不眠が続き昼夜逆転する患者も多い。患者からも、夜間は日中に比べ意識が創部へ集中するためなかなか眠れないとの声もきかれる。また夜間眠れないことでの倦怠感から日中の活動意欲が低下し、リハビリへの参加意欲の低下や食欲不振などもみられることもある。そこで、手術療法後の患者に対しアロマによる芳香浴を実施することでの、睡眠の質の向上を目的に研究に取り組むととした。</p>			
審査結果	条件承認 (令和5年10月3日)		